



同好会ひろば

第280号
R2. 3. 11
No.6

1年間の活動を振り返って

今年度は、「明日につながる同好会活動を目指して」をテーマに、会員が、今よりもさらに授業力が高まった、今よりも人とのつながりが広がったと思えるような同好会活動を進めていきたいと考えました。そのためには、「社会科の授業力を高めること」と「仲間の輪を広げること」が重要であると捉え、社会科同好会が長年大切にしてきた、立場や経験の違う様々な世代の会員のつながりを基盤として、諸活動を進めてきました。

<研究活動を振り返って>

これからの名古屋の社会科教育の推進や授業力の向上に資するように、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、新学習指導要領で学習する内容の教材開発に重点を置き、子どもにとって楽しく学ぶことができる授業となるように研究活動に取り組んできました。

会員同士の活発な議論の下、小学校部会では、各部員が新学習指導要領で学習する内容の教材開発に積極的に取り組み、一つの実践をつくり上げました。中学校部会では、全中社研名古屋大会を視野に入れ、理論をよりよいものにするために、実践に取り組みました。

今後は、小学校部会では新学習指導要領を基にした実践研究を、中学校部会では全中社研名古屋大会の理論に基づいた実践研究をさらに進めていきたいと考えています。

<研修活動を振り返って>

「社会科の授業力を高めること」を目指して、様々な研修活動を行ってきました。

授業づくり講座や授業力アップ研修グループでは、日々の授業づくりや学級経営について会員同士で情報交換をしたり、講師の先生に相談したりする時間を設けて気軽に学べるように工夫しました。また、ステップアップ研修では、論文作成だけでなく、教材化や学習活動の工夫など社会科の授業づくりを一对一で直接学ぶことができる体制をつくりました。

今後も、より多くの会員が社会科の授業力を高められるように、様々な研修活動を工夫していきたいと考えています。

会員の皆様が、それぞれの立場で社会科教師としての力量を向上させることができるよう、事務局員12名で同好会活動を推進してまいりました。至らない点も数多くあったとは思いますが、1年間、お支えいただいたことに深く感謝申し上げます。

(名古屋市社会科同好会事務局長 山吹小学校 村瀬 隆広)

【第280号 紙面】

1年間の活動を振り返って(p1)
2月全体会の様子(p2・3)
小・中学校合同部会研究発表会報告(p4)
第4回授業づくり講座(p5)
日々雑感 千音寺小学校 寺阪 昌也先生・年度末アンケートからの声(p6)

2月全体会の様子

2月7日(金)に愛知県スポーツ会館において、2月全体会が行われました。名古屋市立小中学校長会社会科部会長の早川孝一先生と社会科研究会委員長の内田真一先生にご挨拶をいただきました。

<名古屋市立小中学校長会社会科部会長 富士中学校長 早川 孝一 先生>

子どもたち一人一人が、タブレットをもつ時代が来ます。これをどのように使いますか。調べるために使いますか。デジタル教科書を見るために使いますか。考えを共有するのに使いますか。プログラミングで何かを動かすのに使いますか。最近、ノートのように使うこともあると聞きました。

名古屋市も、個別最適化された学びを努力目標として目指しています。一人一人がタブレットを使って、クラウドを通して、別々に考えをやり取りする時代になるかもしれません。板書も事前に準備して、プレゼンテーションのように示すようになるかもしれません。新しい授業の在り方を考える時代になってきています。

それでも社会科として大事にしたいことは、実際に行ってみる、調べるということです。長年続けている同好会のフィールドワークのように、行って、調べて、先生が教材開発をする。できるだけ子どもも、調査したり体験したりすることができればよりよいと思います。それができれば、迫力ある授業につながると思います。

もう一つ社会科同好会が大事にしてきたことは、話し合い活動です。考えを表出して、共有して、合意を図ったり、どこまで納得できるかを探ったりします。個別最適化の流れの中でも、人と人との関わりで社会ができていく以上は、人と人が話をして、考えを共有するということが大切にしてほしいと思います。

令和4年度に行われる全中社研に向けて準備を進めています。全てが郷土の教材というわけにはいかないまでも、実際に調べる、体験してみようということを中心に教材開発と実践の積み上げを大いに期待しています。

<名古屋市社会科研究会委員長 新栄小学校 内田 真一 先生>

1年間、同好会の皆様のお支えで、研究会の活動を進めることができました。ありがとうございました。

皆様の学校には、「わたしたちのきょうど」の見本本は届いていますか。新学習指導要領の全面実施に向けて、「目で見えるきょうど」と「きょうどの学習」を合本して、今回出来上がりました。こうしたものが、皆様のお支えでできています。ありがとうございました。また、研究員を務めた先生方、研究員応募論文、体験記録に取り組んだ先生方、本当に1年間、お疲れ様でした。



<全体会参加者同士での話し合い>

- 子どもが「社会科が楽しい、好き」と言えるには、何をすべきか。

ある調査では、社会科は子どもの好きな教科ランキングで最下位です。理由は、「楽しくない」「分からない」ことが挙げられています。上位にある体育科や家庭科を考えると、アクティビティがあるかどうかだと思います。いかに、社会科が子どもにアクティブな活動をさせるかだと思います。



子どもが動く活動が必要だと考えます。具体的には、子どもが役割をもったり、映像や音など五感を使ったりする活動です。そのためには、時数の確保も必要です。



子どもが楽しく社会科の授業に取り組むためには、子どもが考えたいような話し合いのテーマ、発問が必要だと思います。

教師自身が社会科の授業をすることを楽しむことが大切です。教師が社会科を好きになれば、子どもにも伝わり、子どもも社会科を好きになります。



会員同士が熱く、活発に話し合う全体会になりました。今年度の「明日につながる同好会活動」を目指した同好会活動を振り返ることができました。

小・中学校合同部会研究発表会報告

1月14日(火)、中小企業振興会館にて小・中学校合同部会研究発表会が行われました。今年度、「主体的・対話的で深い学びを実現する社会科学習」を研究主題として、教材開発に焦点を当てた研究を進めてきました。各学年・分野の推進グループが1年間の実践の発表を通して、実践の成果と課題を共有し、次年度に向けての方向性を確認しました。

また、令和4年度の全中社研名古屋大会を見据え、小学校の会員と中学校の会員が「小学校と中学校の接続・連携について」というテーマで協議を行い、現段階の全中社研名古屋大会の理論について学習しました。

<情報交換・協議の振り返り>

- ・ 中学校の先生は、授業をするときに、小学校で関わった先生によって生徒に違いがあると感じている。小学校・中学校の両方で授業をした経験から、中学校1年生に授業をするなら、「小学校でこんなことやったよね」と伝えられると授業がスムーズに進む。小学校の先生と中学校の先生が気軽に情報交換できるとよい。研究員の時、小学校と中学校の両方の授業を見ることができて勉強になったという話も出た。
- ・ 中学校1年生を教えていると、小学校で学んだ歴史をよく覚えていると感じる。中学校の先生は、小学校で何を学んだかを知っていると授業でどこを丁寧に教えるべきかが明確になる。小・中学校と連携を図ることで、中学校での学習の見通しがもてる。

<全中社研の理論について> 名古屋市社会科研究会役員 富士中学校 加藤 一輝先生

中学校実践を基に名古屋の子どもたちのために理論を作っている。名古屋で4回目となる全中社研のテーマは「人間の生き方を問いつける社会科学習」で、4回とも同じテーマ。

キーワードは「多様化する社会」。社会が多様化し、様々な価値観(生き方)が認められる。また、これから先、全く知らないことが出てくるかもしれない。しかし、今の子どもたちは「自分は自分でいい」「こんな難しいことは解決できない」と諦めてしまう。課題を解決し、よりよい社会を目指して考えることは大切。考え続けることは「主体的な学び」。異なる価値観の人と話し合い、自分の考えをまとめていくことは「対話」。一段階上の考えになることは「深い学び」。これは学習指導要領に合っている。

今回の全中社研では「つなぐ」という段階を位置付ける。中学校として何をやるか、試行錯誤中である。今までのアプローチの仕方から解決の仕方を考え、概念化する。習得したことを、他のことにも生かせると考えることができる子どもを育てたい。

<ご指導・ご助言> 名古屋市社会科研究会副委員長 久方中学校 宮松 徳和先生

小学校、中学校の接続をテーマにし、話し合うことはよいこと。中学校の地理を教えていたとき、小学校で習った関東地方の「京浜工業地域」について「これ、読める？」と聞くと「習っていない」と答える子どもたち。子どもたちは忘れるものだが、繰り返し教えていくことが大切。

同好会でも、成果と課題を来年度に確実に引き継ぎ、生かして行ってほしい。このことは、校内の仕事でも、実践でも同じ。部長同士や事務局の人たちで、または、みんなで引き継いで行ってほしい。その繰り返しがよりよい実践につながり、全中社研につながる。

第4回授業づくり講座

1月24日（金）於 愛知県スポーツ会館

「わくわく！子どもが目を輝かせる社会科の授業づくり」と題して、年間4回の「授業づくり講座」を開催しました。最終回となる今回は、1月24日（金）に、小学校は「新内容・新教材を意識した社会科の授業づくり」、中学校は「みんなで考えよう、学習課題！」というテーマで行いました。

【小学校】講師：水谷 公一 先生（小碓小）

4月から完全実施される新学習指導要領を意識した授業のつくり方について学習しました。各学年の変更点を確認したり、既習事項を基に単元の導入を考えたりしました。また、写真資料を使って、子どもたちが学習問題につながるような疑問をもつことができる導入の工夫についても学ぶことができました。その後、参加者同士で、今年度行った授業でうまくできた、楽しかったなど手応えを感じた授業について紹介し合いました。互いのよい授業を共有したり、交流を深めたりすることができました。



【小学校の授業づくりの様子】

【中学校】講師：加藤 大知 先生（南陽中）

生徒が興味をもてるようにするための学習課題の工夫について学習しました。また、魅力ある学習課題とは何か、学習課題の作り方についても学習しました。その後、グループで歴史的分野の教科書から単元を選び、魅力ある学習課題を、意見交流しながら、考えました。理解させたい内容を、網羅できるように、学習課題をつくろうと、試行錯誤していました。



《参加者の声》

【小学校】

- 来年度から教育課程が変わるということで不安に思っていたのですが、どのように変わるか、各学年の違いや留意点などを教えていただき、とても勉強になりました。
- 導入についてこの一年悩んでいたため、「既習事項を手掛かりにする」「資料提示の仕方を工夫する」とよいことが分かったので、早速実践していきたいと思えます。

【中学校】

- 講師の先生の独特な教材の切り口や、取り組みを聞くことができ、自分の授業の中でも挑戦してみたいと思いました。とても勉強することができました。
- 良い授業をしていく上で、どのように学習課題を設定していけばよいのか、困っていましたが、「魅力ある」学習課題ということのポイントを考えていけばよいことが分かりました。講座の中で、実際に学習課題を設定する体験ができて本当に良かったです。

2019年は「平成」から「令和」へと時代が変わる歴史的な年となった。その節目の前、平成31年3月に偉大なスポーツ選手が引退を発表した。日本のプロ野球、アメリカのメジャーリーグで活躍をしたイチロー選手である。

スーパープレーや記録だけでなく、名言も残してきたイチロー選手。今年で最後となるイチロー杯閉会式で子どもたちに向けて話した言葉が次のものである。

「時代の流れなんでしょうけど、先生より生徒のほうが強くなっていることがあるみたい。……（中略）……厳しく教えるのが難しくなっています。最終的には自分で自分を教育しないといけない時代になりました。それが大切なことと覚えておいてほしい。……（略）。」

果たして厳しく教えることは時代に合っていないのだろうか。もちろん子どもたちを苦しめたり悲しませたりすることはよくない。しかし、しなくてはいけないことをきちんとさせる、してはいけないことをさせない。例え、それが我慢を強いることだとしても絶対に指導者が指導すべきことだと思う。もちろん子どもへの指導だけではなく、同僚や後輩教員への指導についても、厳しくすることから逃げてはいけないと感じる。優しさだけでは、向上心の妨げになるだけでなく、失敗に対する責任についての認識も甘くなるのではと思う。心を鬼にして指導することも必要だと思う。

2020年には新学習指導要領が変わる。自分自身も含め同好会の先生方には、人に教わることと自分で学ぶことを積極的に進め、しっかり理解した上で子どもたちへの指導につなげていってほしいと思います。自分で自分を厳しく教育していくことも忘れずに。

<年度末アンケートからの声>

たくさんの会員の方々から年度末アンケートへのご協力をいただきました。ありがとうございました。ここでは、その一部を紹介させていただきます。

改めて同好会のもつ力を実感しました。たくさんの先生と関わっていることの大切さやお世話になっている先生方の存在の大きさを感じました。

授業力アップ研修グループでは、指導者の先生が丁寧にご指導してくださって、とても勉強になりました。

働き方改革を見据えて、研究の在り方や例会などをさらに見直す必要があると思う。社会科はどんどん新しいことを行い、若手会員を取り込めるような会をつくっていかないといけない。中堅の会員が若手会員をどんどん連れていく必要があると思う。分かりやすいテーマで研究に取り組むといいと思う。

ステップアップ研修では、指導者の先生に継続して、ご指導いただいているおかげで、自分が研究していきたい内容がまとまってきました。

今後も授業力向上のため、同好会活動に積極的に参加していきたいです。